

第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会 第73回九州算数・数学教育研究(沖縄)大会趣意書

平成31年8月5日(月)から9日(金)までの5日間、第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会を那覇市・宜野湾市・浦添市で開催することになりました。

この大会は、全国各都道府県の小・中・高等学校及び大学等の算数・数学教育に携わる教職員が一堂に会し、算数・数学教育の充実・発展のために日頃の研究や実践を発表・協議する大会です。大正8年に第1回が開催され、本大会で101回目を数える伝統ある研究大会であり、その間、多くの教職員の熱心な取り組みや各教育行政機関並びに関係各位の御理解、御支援のもと、年々充実・発展して参りました。

さて、近年、社会を取り巻く環境は、少子高齢化やグローバル化、IT技術や科学・技術等の急速な進展で加速度的に変化しており、将来を過去の延長線上では予測することが困難な時代を迎えています。特に、人工知能技術の発展は凄まじく、「今後20年間で、米国の雇用の47%が、人工知能やロボットに職を奪われる」や「子ども達の65%は将来、今は存在していない職業に就く」などの予測が発表されたことで大きな話題となりました。これらの予測がどこまで現実のものになるかはさておき、このような社会環境の変化は、これからの社会を担うすべての子ども達の生き方に大きく影響を与えることになります。

これからの学校教育には、子ども達が社会の様々な変化に積極的に向き合い、どのように未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくかを考え、主体的に学び続け、多様な他者と協働して新しい価値を生み出していくことが求められます。

そしてこうした状況を背景に、新学習指導要領では、子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力を育成するための課題を社会と共有し、知識の理解の質を高め、『確かな学力』の育成及び豊かな心や健やかな体、すなわち『生きる力』を育むことを改訂の基本的な考え方としています。

また、算数・数学教育では、子ども達が自らが問題の解決に向け粘り強く取り組み、事象を数学的な表現を用いて説明したり、数学的活動を通して新しい概念を形成したり、より良い方法を見いだしたりなど、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現することが求められています。

そこで、沖縄大会では、これらのことを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現及び未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するための算数・数学教育の確立を目指し、研究主題を「**未来社会を切り拓くための算数・数学教育～主体的・対話的で深い学びによる探究力の向上を目指して～**」と設定しました。小・中・高校・大学の各部会においても、同研究主題で教育実践の研究を推進したいと考えています。

全国算数・数学教育研究大会は、本県では初めて開催となりますが、実りある大会にするべく、準備委員会を立ち上げて準備を進めているところです。

皆様におかれましては、全国算数・数学教育研究(沖縄)大会並びに九州算数・数学教育研究(沖縄)大会の趣旨を御理解いただき、大会成功のために御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月吉日

公益社団法人日本数学教育学会会長
沖縄大会準備委員長・沖縄県数学教育会会長
沖縄県算数教育研究会会長
沖縄県中学校数学教育会会長
沖縄県高等学校数学教育会会長

藤井 齊亮 (東京学芸大学名誉教授)
山城 康一 (琉球大学教育学部准教授)
有銘 盛和 (那覇市立与儀小学校校長)
長嶺 肇 (那覇市立小禄中学校校長)
宮城 薫 (沖縄県立開邦高等学校校長)